

### サイトメガロウイルス抗体検査

サイトメガロウイルスは病原性の弱いウイルスです。感染しても症状がなく経過することが多く、また、多くのひとが免疫を持っています。しかし、妊娠初期に胎内感染を起こした場合、赤ちゃんに視聴覚障害や精神発達遅滞などの後遺症を残すことがあります。

妊婦がサイトメガロウイルスの免疫(抗体)を持っている割合は、従来 95%以上ありましたが、近年その割合は低くなり、現在は、80%くらいと報告されています。あなたが免疫を持っているかどうかは血液検査でわかります。免疫を持っていないひとにとっては妊娠初期にサイトメガロウイルスに感染しないことが重要です。乳幼児はつば(唾液)や尿中にウイルスを排出していることがあり、接触した時はよく手洗いすることが重要です。また、精液中にもウイルスが排出されるため、性交時のコンドームが推奨されています。

赤ちゃんがサイトメガロウイルスに感染して生まれてくる割合は 100-250 人に 1 人といわれています。サイトメガロウイルスに感染していて何らかの症状をもつ確率は 10%前後で、多くは正常に発育します。

当院では妊婦健診で先天性サイトメガロウイルス感染症が疑われた場合などに検査を行う場合がありますが、サイトメガロウイルス抗体のスクリーニング検査は行っておりません。検査についてのご質問、検査を希望されるかたは担当医にご相談ください。